

地獄のままの一步一步が

- 私はもう何年もお寺参りをしますが、どうしても大安心になれませぬ。どうかお導きください。
- △ どう安心ができませんぬ。
- これからお浄土参りができるといふ安心ができませんぬ。(彼にはまったく真劍がない)
- △ そんな安心を何にします。
- 極楽にまいらせてもらいたいのです。
- △ おやめなさい！ 自分の身のほどを知りなさい。今まで何を聞いていたのですか。そんな浮いたことばかり考えていてどうするのですか。いったいあなたは自身自身を知っていますか。
- 地獄ゆきと聞いております。
- △ 聞いただけだからだめなのです。深く深く自分の心の内をみつめるのです。自分のほんとのありさまを見つめた時、そこに自分の道は開けてくるのです。自分自身がほんとに知られてきたら、浮いたことは言つてはいられぬのです。
- わかりました。私はもつとひきしまつた内省の日暮らしをいたしましょう。
- △ そうです。道徳の実行にも心掛けるのです。心と口と体との上に出てくる自分を見つめます。そうすれば自分がいかなるものであるかがわかつてきます。
- 私はどうしても安心ができませんぬ。
- △ 何の安心ができませんか。
- 後生の一大問題について安心ができませんぬ。いくら聞いても、いくら聞いても、安心ができませんぬ。
- △ なぜでしょう。あなたの魂の根本問題は何なのでしょうか。わかり易く言えばあなたにとつて一番大切に急な問題は何なのでしょうか。
- わかりませぬ。
- △ それがわからなくてどうするのですか。よく考えて見るのです。
- いずれ死にますから、死がおそろしいのです。ですから死んでもさしつかえないように、死のあなたに美しい世界の約束がほしいのです。
- △ なるほど。それができましたか。
- それができますぬので困っています。
- △ 海岸に出て海のかなたの島に目をつけているようなものです。何日目を島につけていても渡られる気づかいはありませんぬ。
- どうすればいいのですか。

△ あなたの毎日の一足一足がどうなっているかを考えて見ましたか。

□ それは善いことはいっこうできません。いわゆる地獄行きの仕事ばかりしかできていませぬ。お恥ずかしいことであります。私のような悪人はいませぬ。いな、悪人も知らぬ悪人です。なんでいい所へ行けましょうか。一步一步が、助ける者もない。さびしい足どりで生きてゆくのであります。

△ それに間違いありませんか。

□ 間違いありません。

△ それを改めることは、やめることは。

□ それもできません。

△ では、それこそ地獄一定ですね。

□ 実は昨夜も私のこの機をながめて、寝られもせず、どうすればいいかとそればかりです。しかもどうにもならぬのです。

△ 念をおします。そのままの歩みしかできませんか。そうでしょう。どうしてもそのままの日暮らしよりほかできないでしょう。それがよし地獄だろうと極楽だろうと、あなたには、そのまま生きてゆくよりほかはないのです。

□ どういたしましょう。たった一つこのままで永劫のあなたまで生きてゆくよりほかないのです。私は浮いた心で言っているのではないのです。私にはどんなありがたい説教も、この地獄一定とさめきつた私を感動さすこともできなければ、あまつたるい一時的の涙で自分を欺いていることもできないのです。私には生死、死活の大問題です。

△ あなたの真剣な態度に厳粛なおもいがします。

□ 私は、極楽にまいれるというようなのんきなことを知ってもいられなくなつたのです。一切がだめなのです。私はこのまま一切宗教に見はなされたのでしよう。絶対他力だとあれだけ聞いた阿弥陀様のお慈悲でさえもう救われないのでしよう。私にはもう神もありませぬ。仏もありませぬ。これはみんな私の小さな頭に描いている偶像だったのです。そんなものがみんな破壊されてしまった私は天涯たった一人の孤独ものであります。

△ 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏……………

□ 先生、なぜ導いてくださいますか。何なりとおっしゃってくださいませ。私には最後なのです。

△ あなたは死のあなたの美しい世界と言いましたが、それはあなたの分を忘れた単なる希願であつたことが知れましょう。それよりも、生死の巖頭に立つたあなた、あなた自身をどうするかという大問題にぶつつかつたあなたは、今のあなたが問題の中心でしょう。

□ そうです。私はどうすればいいのです。最後です。たった一口徹底的な断案を下してください。

△ 金剛の断案は下されているではありませんか。明かに。

□ わかりました！ そうです。はっきりわかりました。大それた考えを持つていました。なんとという馬鹿だったのでしよう。永劫の地獄！ それが私のたった一つ

のみちなのでした。ありがとうございます。なんとという大それた私だったのでしょうか。南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏………わかりました。このままだったのです。このままでよかったです。なんとというお慈悲でしようか。

△ わかりましたか。そのたちあがったあなたを尊く思います。ビクビクせず歩むのです。大手ひろげて歩むのです。その地獄のままの一步一步がお浄土へです。そのまま歩むところが慈悲です。あなたの一步一步の日暮らしの上にお浄土への道はあるのです。地獄一定の三毒五欲のただ中に、そのまま、地獄のままが白道です。弘誓の船の中です。

□ ありがとうございます。極楽と地獄二つの道があるかと思いましたが。極楽ゆきはどうすればなれるかとそればかり苦しみました。ばかなことしてしまいましたね。

△ 生死大海上の船に足をふみ入れます。いな、海に足を入れます。その足下には船があります。本願他力の船があります。岸にこしかけて、死にさえすればなどと腰をおろして、あなたの島をながめていては、今にも死なねばならぬのです。ふみこんで行けば、渡れそうにもないところに道は開けてきます。

□ 今まで聞いた一切が役だつ時が来しました。私にはもうこれがこわれたり、消えたりすることはありませぬ。毎日、三毒の大波が、弘誓のみ船に打ちよせる音を聞きつつ一步一步、しつかり今までどおりの道を歩ませてもらいましょう。どうもありがとうございます。